

オオシラビソ稚樹の移植作業（第1回）に参加しました

令和6年7月12日（金）に、山形市の蔵王国有林でオオシラビソ稚樹の移植作業に参加しました。

蔵王のオオシラビソ（別名アオモリトドマツ）は冬季になると樹氷に覆われとても幻想的な景色となり、その風景を一目見ようと毎年多くの観光客が蔵王を訪れます。しかし虫害により地蔵山頂周辺のオオシラビソが2016年頃より一気に枯損しました。

山形森林管理署では、被害状況の調査・モニタリングを行うとともに、オオシラビソ林の将来の再生に向けて、2019年より山頂周辺においてオオシラビソ稚樹の移植や播種試験等に取り組んでいます。

令和5年3月には樹氷復活県民会議（以下「県民会議」）が設立され、オオシラビソ稚樹の移植に県民会議としても取り組むこととなるなど、活動の輪が広がっています。今年は7～9月に1日ずつ稚樹の移植作業が計画されており、今回はその1回目になります。

当日は山形県立村山産業高校の生徒16名が参加し、オオシラビソ稚樹の探索・採取・移植を行いました。樹氷高原駅付近では藪をかき分けながら稚樹を探索し、スコップで笹の根が張る固い地面を掘り稚樹を採取。その後ロープウェイで地蔵山頂駅へ移動し、また固い地面を掘りオオシラビソの稚樹を移植しました。笹の根がかなり深くまで張っているため、とても苦労しましたが、努力の甲斐あって計22本の稚樹が無事移植されました。

引き続き、県民会議をはじめ関係機関の皆様と連携して、地域の宝である樹氷を形づくるオオシラビソ林の再生に取り組んで参ります。

